広報
さめがわ

昭和５１年
３月号
No. 267
編集兼発行
鮫川村総務課
境町佐藤印刷所



村長村議会議員で木村知事に陳情

鮫川村では村長議長初め議会議員全員を２班に分け、昭和51年度計画の各種事業予算について県当局に陳情を行いました。

先づ第１班は、２月２０日知事室に木村守江知事さんを訪ね、県政懇談会のお礼を申し上げ、村の最重点事項について特にご配慮方を要請しました。

鮫川村の陳情団というので木村知事さんも笑顔で一行を迎えられ、善処を約束されました

このあと一行は庁内の土木部、農地林務部、総務部を廻って各課に陳情し、第２班は２月２３日厚生部、農政部、生活環境部各課に陳情しました。

- ⊙ １日　交通事故ゼロ、歩行者優先の日
- ⊙ ５日　交通事故相談日（白河地方行政連絡室 TEL 白河(2)１５５０）
- ⊙ 毎月１０日　防犯の日
- ⊙ 第３日曜日は『家庭の日』

今月の人口

（３月１日 現在）

人口	5,968	(+11)
男	2,999	(+ 5)
女	2,969	(+ 6)
世帯	1,170	(0)

昭和51年度事業陳情風景



農地林務部の村田部長さんは、担当の係長を呼んで念を押すほどのご熱心さ！



新しく赴任して来られた佐々木道路建設課長さんに対しては、村長の説明も詳細をきわめる。



白河出身の辺見生活環境部長さんは、温厚で親切なお人柄愛想がよかったと好評



肝腎な財政対策、特に有利な過疎債、辺地債については、佐藤静雄地方課長さんと、石田村長が1対1の対談要請となった。

おはなのおみ ⑪

減速経済下の予算編成

村長　石田卯子八

昭和五一年度の国の一般会計予算の前年度に対する伸び率は、一四・一%となっております。減速経済下の現在では、これだけの伸びを出すためにも国は膨大な国債を発行しなければならない実情にあります。

このきびしい経済情勢の中で各地方公共団体も五一年度予算の編成を行うことになりましたが、その指針となるものは国の定めた地方財政計画であります発表されたこの計画を見ると、いかにも苦悩にみちた姿がうかがえます。

県も市町村も自主財源である地方税の落込みは甚だしい。

頼みとする地方交付税は、法人税所得税酒税のいわゆる国税三税の三二%となっているので、不景気による国税の減収は自動的に交付税の減額に連動する。

このままでは地方財政は破綻を免れない。それで自治省は地方財政の財源確保のため、一兆三一四一億円を資金運用部からの借入れで処理する方法を採ったのであります。

この措置は、地方公共団体としてはありがたいことで、地方財政計画の対前年度伸び率は一七・二%となり、国家予算の伸び率を上廻ることになりました。

しかしこのことは、前年度の伸び率二四・一%よりはるかに低く昭和四二年度以来の最低であることを考えれば、減速経済のきびしさはここでも切実にうけとめなければなりません。

町村もこれまでのように、見積り財源を或る程度ふくらましても確保できるという見通しは棄てなければならず、町村の補助助成に依存する各種団体や事業も、ゼロからの出発を考えるべき時代になったというべきであります。

福祉優先とはいっても、高福祉には相応負担を伴うものであるという認識が必要であります。

また、公営施設や公営事業もタダで運営できる筈のものではなく行政サービスに対応する受益者負担を要することは当然で、使用料、手数料、受益者分担金の増額も必要に迫られることになりましょう。

しかし、原則としては高福祉が高負担を伴うものであることに変りがないとしても、行政の本質は住民へのサービスでなければならないから、福祉の受益量と負担との間にはある程度のバランスがあるべきことは当然であります。

そのために、行政の側では増高する義務的経費、即ち人件費等の抑制、適正化、合理化に努め、行政の真義を効率的に発揮する努力が必要であります。

奨学金のお知らせ

村では鈴木春栄画伯奨学金を貸しています。

高校・高専（一年～三年）には在学中月四〇〇〇円、高専（四年～五年）、大学生には在学中八〇〇〇円を貸します。

次の条件を充たしている方で、ご希望の方は、村教育委員会（電話四二番）に申し込んでください

☆村に五年以上住んでいたこと

☆高校・高専・大学に在学していること（今春、入学予定の方も申し込める。）

☆経済的理由により修学が困難であること。

☆他から奨学金を受けていないこと。

☆品行正しく、学術にすぐれ、身体強健であること。

知事は語る（その2）

渡瀬保育所の設置
五一年度には実施

＝知事をかこむ県政懇談会＝質問と答弁、今月は福祉と生活環境、土木問題について紹介いたします。

渡瀬保育所の設置について

（質問者　字江竜田　芳賀貞子）

私たちの部落から村の中央部の保育所までは、八キロメートル以上もあるので幼児を通わせることができません。

渡瀬、青生野地区を対象に、渡瀬地内に保育所を設置して下さるようお願いします。

村ではすでに土地も買収し、建設予算も取ってあるとのことですから、国や県の許可が頂けるようご配慮をお願いします。

◎知事答弁

県では、保育所の建設を重点施策の一つとしてとり上げています。

今年は一八の要望に対し総需要抑制のあおりで一三きり確得できない状態でした。五一年度にはご要望に添うよう村長さんともよく相談の上やってゆきたい考えです。

生活改善センターの建設について

（質問者　字鍬木田　松本君子）

富田地区では、区民の集会の場がなく、部落の集会等には止むなく学校やお寺などを借りています。

身近に使える区民の家としての生活改善センターを是非作っていただきたいのです。知事さんのご配慮によって、県費の助成が頂けるようお願いします。

◎知事答弁

生活改善センター建設は、県内各地から沢山の要望があります。

鮫川村の場合、昭和四七年に農山漁村振興特別対策事業で西野地区に一棟作られました。更に来年度からは、第二次の山村振興特別対策事業で山村開発センターを建設しようということになっています。その上、富田地区に生活改善センターを作ってほしいということになると、なかなか村の財政も容易でないことになります。

それで、これから出来る施設、今まであった施設を有効に利用してもらいたい考えです。

ただし、経済が好転し、世の中がもっと経済的によくなってゆく状態になったらご要望に添えるよう努力します。

国道三四九号線の改良舗装について

（質問者　字馬場　鈴木　重隆）

今回昇格認定された国道三四九号線では、本村地内が一番建設がおくれ、未改良箇所が多いので、この際大巾に拡巾改良と舗装工事を進めて下さるようお願いします。

なお、強滝地内の改良については、原道のまま舗装されるという話を聞きましたが、ここは坂道で交通量の多い所ですので成規の拡巾改良をした上で舗装工事をして下さるようお願いします。

◎知事答弁

この道路は国道になったばかりの路線で、国道の規格に合致しない狭いところ、屈曲したところがいたるところにある道路です。

県としても、出来るだけ手をかけ四、五年後には立派な道路に仕上げたい考えです。

工事の進め方としては、初めは原道添に舗装すること、その後基本的に道路改良を行い、直線道路を作ったり、バイパスを作ったりすることになります。これが道路改良の方式です。

県でも国道になった限り一生懸命やりたい考えです。

村道の過疎代行改良工事について

（質問者　字大石草　鈴木孝雄）

大石草部落の中央を走る村道遠ケ竜戸草線は、整備されていないため、産業上にも生活の上にも大変困難しております。

用地についてはすでに部落民全員の同意を得ております。このことで村に陳情したところ、村の過疎地域振興計画に入れて、県に代行事業をお願いしているとのことです。どうかこの際、県の過疎代行事業として御採択いただき、早期に改良工事を実施して下さるようお願いします。

◎知事答弁

本県は、市町村道の整備の遅れが目立っています。

これは道路の延長が他県に比べて非常に長いためで、市町村だけでは管理が容易でないため、一級市町村道については県が行う方針でおります。

ご質問の路線については、村長さんと色々相談の上やってゆきたい考えです。

この路線は全長二キロあるが、このうち五一年の計画として四〇〇メートル位代行事業として行うことにしたい。三年位で全線を仕上げたい考えです。





毎年恒例の納税表彰式は、2月17日鮫川村公民館で行われました。昭和50年度の完納表彰を2月の時期に行えることと、19年間継続完納ということは、わが村だけの持つ実績で、全国に誇るべき成績といえます。

この日組長さんは定刻にほとんど出席され、多数の功労者が表彰されました。

◎関連質問

県道の早期全面舗装について

（質問者　字道少田　白坂真平）

棚倉上三坂線と黒田浅川線は、国鉄駅にも通じ、村民の生活路線として重要な路線です。

一日も早く全線舗装していただきたくお願いします。

◎知事答弁

お話の路線は確かに重要な路線ですね。棚倉上三坂線は、主要地方道として今年も相当の予算をつけて改良舗装を行っており、黒田浅川線も路線の重要性から改良舗装を行っております。できる限り早く整備したい考えです。

強滝地内の改良は拡巾の上舗装工事をしてほしい

（質問者　字馬場　鈴木　公義）

強滝地内は、冬期間凍結してしまい危険なところです。

また通学路でもあるので、予算上の面もありましょうが、延長にこだわらず、拡巾の後舗装して下さるようお願いします。

◎知事答弁

この地区の改良舗装については危険のないような改良を行ってから舗装するのが適当と考えますが技術者によく調べさせた上で工事を行いたい。

◎白河建設事務所長

この地区については、村と協議の上、拡巾して舗装するが、直線の見通しの良い所は原道舗装とした方が早く工事が進むので、このような方法で進める方針でおります。（完）

私の見たヨーロッパ(3)　森　洋

工業の町エッセン市　（そのI）

九月一〇日午前六時二五分、私達は多くの仲間と別れ、二六人というコース別の小グループになり、初めての訪問地ベルリンを後にしました。

飛行機に乗ること一時間一〇分ケルン市と西ドイツの首都ボン市の中間にあるケルンボン空港に着きました。

ライン川のほとりに立つケルン大聖堂を見学の後、私達がこの旅行中一番長く滞在した西ドイツの心臓部と言われるルール工業地帯の中心都市エッセン市を訪問しました。

人口約七〇万人、ドイツでは大都市になる。この町は、鉄工の町そしてクルップ製鉄所の町として世界的に有名です。

私達は翌日の九月一一日から二日間、市内の見学に入りました。通訳の人の他に、市の観光課からの案内嬢マーガレット・ネヤン女史がくわしく案内をしてくれました。特に市の歴史については「この町は古い町で、昔から商業の町として栄えて来たが、炭坑とクルップ製鉄所の発展で一躍大きくなり、一時はクルップでドイツの三分の一の税金を支払っていた。そして二年程前まではスモッグも発生し、典型的な工業の町であったが、現在では炭坑も一つを残し閉山。商業、そして学校の町へと変りつつある。」ということを強調しておりました。

また、私がおどろきましたのはこのエッセンも緑が多いということであります。聞きましたところ市の面積の五〇パーセントは緑地帯であり、緑地帯を市面積の¼以下にしてはならないという法律があるということです。現に私達が見学したグルガーという公園。なんと面積が七〇ヘクタールあり、中は各種のグランドや花畑があり芝布の上で若者がサッカーをたのしみ、すぐその周りで老人がイスを持ち出し日光欲をする。このような姿は日本では見られません。なんといっても緑は酸素を供給する素であり、それをいかに重要にしているかが伺われました。



第二回村の書ぞめ展終る

—金賞に生田目幸子さんら九名—

去る一月二三日から三一日まで村公民館の主催で、第二回の書ぞめ展が開催されました。

村内の児童、生徒及び一般から一一一点の応募があり、厳正審査の結果、次の賞が贈られました。

〔小中学の部〕

▽金賞　生田目幸子、根本正則、関根道夫、舟木圭子、円井淳子、宗田里美、岡部久美子、星忠三、青砥忠広

▽銀賞　二瓶瑞久、松岡幸男、遠藤康雄、赤坂峰子、斉藤靖夫、高坂善知、関根さと子、緑川教子、関根邦芳、円井高、小滝健弘、佐藤浩子、矢吹仁、木之内ヤスヨ、大森和也、稲村聡律、山本せつ子、蛭田好也

▽銅賞　長久保美智子、藤田留男、蛭田浩幸、星美智子、鷲野谷幸子、松本宇子、北条和子、高坂隆之、佐藤征一、高坂明、関根則子、大竹美智子、阿久津光代、青戸秀樹、高野真子、高木加代子、生田目順子、中川西久男、斉藤洋子、湯座美和子、前田正男、溝井美智子、蛭田さち子、酒井勇寿、坂本幸雄、坂本克男

▽入選　四七点（氏名略）

〔一般の部〕

▽金賞　小松幸一、青戸カツ子

▽銀賞　金沢一夫、高木モト子

▽銅賞　高木モト子、青戸カツ子、金沢一夫、小松幸一

▽入選　六点（氏名略）

おめでた

二月

福原　蛭田孝代　父蛭田康之
岡田　舟木八重子〃舟木　功
本坂　藤田奈緒美〃藤田文雄
青生野　堀川　優　〃堀川信四郎
戸草　山本秀樹　〃山本元次
上野町　吉田　朗　〃吉田良一
二反田　松本百代　〃松本謙一
木戸沢　鈴木三樹子〃鈴木正孝

おくやみ

二月

押野　緑川シウ　83才緑川武男　世帯主